

# 日本大学高等学校・中学校基本計画〔令和3年度～令和13年度〕

## 日本大学高等学校・中学校

令和3年、本校は創設90周年の佳節を迎えた。この90年を礎として、10年後の2030年にあたる創設100周年に向けて様々な進化を遂げるべく、新たな教育システムの構築と100-50記念館及びさくらホールの建替事業を基軸とした「日本大学高等学校・中学校創設100周年記念事業プロジェクト」を平成30年9月に設置した。

それと並行し、令和2年4月に「日本大学高等学校・中学校 SHINKA!プロジェクト」を設置し、新たな教育システムの構築を目指すこととした。これは、令和4年の学習指導要領改訂に伴う高等学校新カリキュラムの導入に伴う教育の更なる進化を目指すものである。「主体的で深い学び」「協働する学び」を提供するための「教育の質」「学びの質」を保証するとともに、“生徒ファースト”の精神で生徒の夢の実現を目的とし、次の2本柱で構成され、今後における本校のあるべき教育的方向性を決定するものである。

1点目は、「ICT教育」「グローバル教育」「人間教育」の更なる充実を図るべく教育ソフト面の「SHINKA!」である。生徒一人ひとりが体験型キャリア教育を通じて様々な気づきを促しながら、新しいことにチャレンジする「新化」、多様性を受け入れ親しむ「親化」、探究活動を通して深く掘り下げていく「深化」、多様な経験を糧に成長し続ける「進化」を遂げ、自分の人生に真の価値「真価」を見出すための素養と行動力を醸成することを目的とする。

2点目は、教育システム面の「SHINKA!」である。中学校と高等学校との接続方法を検証し、それをベースとしてコース・クラスごとのアドミッション・ポリシーを定め、それに基づくカリキュラム・ポリシーのもと新カリキュラムを策定する。加えて、単位認定や卒業認定の方針としてのグラデュエーション・ポリシーの明確化を図るなど、カリキュラム・マネジメントを進めることが重要であると考えられるものと思料する。

さらに、10年後にあたる創設100周年記念事業の要ともなる100-50記念館及びさくらホールの建替事業は、教育ハード面からの新キャンパス構想として具体的な策定が最重要課題であると考えている。中学校・高等学校の完全分離型校舎を目指し、“生徒・教職員にとって安全・安心なキャンパスづくり”をコンセプトとして、具体的な使用方法はもとより、建替場所や建築方法を専門家の意見も聴きながら検討することが重要であると考えられる。基本設計構築までの時間はそれほど多くはないと考えられることから、早急に検討に移行したいと考える。その上で、今後、教育に関わるハード面とソフト面の両面を充実させバランスよく運営するため、定期的にPDCAサイクルにより効果検証を行い、次なる進化を目指すものである。

“教育は永遠に未完成である”といわれている。不易流行の精神で伝統を礎に、常に時代に即した進化が必要である。生徒や保護者が「行きたい」「行かせたい」学校であり、また、卒業時には「行ってよかった」「行かせてよかった」といわれるような学校づくりこそが、今後における私立学校としての安定した経営基盤の原点にあると考える。

“すべては生徒のために”をモットーとし、社会から評価され選ばれる学校とするための学校づくりを目指していくため、次のとおり令和3年度以降令和13年度までの10年間にわたる基本計画の概要を示す。

なお、令和12年度における高等学校3年生は令和3年度の小学校3年生であり、小学校4年生から中学受験の準備を始めることが一般的であるという状況を考えても、10年後の令和13(2031)年は「長期」というよりもむしろ「喫緊の課題」として捉え、綿密なマイルストーンを描きつつ、組織的かつ体系的、また、着実に進めていくこととする。

## 1 カリキュラム・ポリシー及びグラデュエーション・ポリシーに基づく“生徒ファースト”を捉えた主体的な学びの確立

- ① 教育力強化を目的とする中高接続方法の進化
  - (1) 中学校コース制及び高等学校クラス（コース）制の各コース・クラスのアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びグラデュエーション・ポリシーに基づく一貫した教育体制の構築
  - (2) 内部生に係る中学校コース制から高等学校クラス（コース）制への一貫化の強化を目的とする接続方法に関する進化と実質化
  - (3) 高等学校クラス（コース）制の位置づけの明確化と実質化
  - (4) 旧帝国大学も含めた国立大学や医歯薬獣医系大学・学部等への進学を目指したコースの設置
- ② 生徒一人ひとりの夢の実現を目指すオンデマンドな「魅力あるカリキュラム」の策定に向けたカリキュラム・マネジメントの推進
  - (1) 生徒一人ひとりの夢の実現を目指すオンデマンドな「魅力あるカリキュラム」の策定に向けた方向性として、次の2点を検討し実行する。
    - ア. 「カリキュラムに係る基本方針」に基づくカリキュラムの策定
    - イ. 生涯にわたる豊かなキャリア形成を企図し職業観の醸成を捉えた体系的かつ体験型プログラムによる「キャリア教育プログラム」の策定
  - (2) カリキュラム策定に係る具体的なコンセプトとして、次の諸点を掲げる。
    - ア. アドミッション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを意識した教学マネジメントシステム改革の推進
    - イ. 生徒の理想とする未来の自己実現に向けた外部機関を活用した学習サポートシステムの構築
    - ウ. SDGs の達成を目指す学習・教育活動の導入
- ③ カリキュラムに係る教育効果の測定と改善策の展開  
教科横断的な視点に基づき教育内容と教育活動の在り方を的確に捉えP D C Aサイクルのもとにおけるルーブリック検証による教育効果測定及び改善策の展開
- ④ 生涯にわたる豊かなキャリア形成の醸成に繋がるキャリア教育の推進
  - (1) 生徒のキャリアを形成するための教育活動の推進
  - (2) 日本大学及び本校に対する帰属意識を涵養するための自校史教育の推進
  - (3) 語学教育に留まることなく自国の文化や歴史を理解する教育の展開
  - (4) 大学進学後の各専門分野に繋がる「キャリア教育プログラム」の展開

## 2 ICT教育先進校から発展充実校としての更なる飛躍を目指した新たな学習・教育手法の開発・推進

- ① 「主体的で深い学び」「協働する学び」を提供するための「教育の質」「学びの質」に係る向上策の展開

- (1) ICT教育を通じた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」等を育む方策の検討・推進
- (2) オンライン学習・教育手法や経験を活かしたICT教育の進化
- (3) 論理的思考力を醸成するプログラミング教育の観点を捉えた新たな学習・教育手法の展開

② 「キャリア教育プログラム」と連動したICT機器と教育ソフトの活用の推進

- (1) 「キャリア教育プログラム」と連動した調べ学習と振り返り学習におけるプレゼンテーション教育の更なる展開
- (2) ポートフォリオ機能を活用したキャリアデザイン力の醸成

### 3 新たな時代に向けたグローバル教育の推進

- ① ネイティブ講師との協働による英語を活用した効果的な学習・教育方法等の調査研究並びに具体的方策の展開
- ② ネイティブ講師とともに運用する「イングリッシュ・ラウンジ」の更なる有効活用による英語力向上に向けた取組と異文化体験の推進
- ③ 充実した海外研修を通じた多様性理解力の醸成
- ④ 海外学校（提携校等）との協働による同期型オンライン教育の共同実施（COIL）等を通じたPBLによる異文化間コミュニケーション教育等の展開
- ⑤ 真の国際人養成を目的とした「ダブルディプロマプログラム」の導入

### 4 新たな学習・教育手法等の開発と研修制度の充実

- ① 次世代を見据えた新たな学習・教育手法等の研究開発
- ② 新たな学習・教育手法等に係る教職員研修制度の確立
- ③ SDGsの実現やSociety5.0社会への対応を踏まえた複合的かつ教科横断的でボーダレスな総合的学習・探求的学習の充実

### 5 「進路指導に関する基本方針」に基づくきめ細かな進路指導体制の確立と効果的なキャリア形成の推進

- ① 「進路指導に関する基本方針」に基づく「キャリアポートフォリオ」（進路指導計画）の充実
- ② 「キャリアポートフォリオ」（進路指導計画）による日常的な進路指導等の内容に基づく実効性あるキャリアガイダンスの企画・実施

### 6 生徒の健やかな成長のための「人間教育」の推進と生徒支援体制の充実

- ① 生徒の主体性や協働力、技術力等の向上を育むための「魅力ある課外活動・部活動」の推進
  - (1) 「部活動の在り方に関する基本方針」に基づく中長期的な在り方の検討
  - (2) 部活動の位置づけに関する検討
  - (3) 部活動数の適正化と部活動顧問配置に関する検討
  - (4) 強化部の在り方に関する検討

- ② “生徒ファースト”を捉えた生徒支援体制の拡充
  - (1) 生徒の安全・安心を第一に捉えた学校生活環境の構築
  - (2) 生徒支援体制の構築と活用推進
    - ア. 「生徒支援センター」(仮称)の設置に向けた検討
    - イ. 専門家(スクールカウンセラー, スクールロイヤー, 産業医等)との協働体制による充実した生徒支援体制の確立
- ③ 生徒相談に関する諸問題や相談技法等に関するワークショップの開催等教職員に対する研修制度の充実
- ④ 地域社会や近隣小学校・中学校等との連携・協働関係の模索
- ⑤ 感染症対策等の組織的かつ効果的な対応に向けた事業継続計画(対感染症及び対災害発生時等)の推進

## 盤石な経営基盤の確立

### 1 魅力ある学習・教育体制を広く周知する新たな広報活動体制の確立

- ① エビデンスに基づくデータ分析, ビッグデータ, データサイエンス等を活用した効果的な広報活動の展開
- ② 大学教員等の協力によるマーケティング理論に基づく効果的な広報活動に係る具体的な方策の検討
- ③ 教育系シンクタンクやコンサルタントの活用による客観的視点と他校の情勢を汲み入れた戦略的広報活動の展開

### 2 アドミッション・ポリシーに基づく質の良い入学者の確保を企図した新たな入学試験制度の確立に向けた検討

- ① 質の良い入学者の確保を企図した新たな入学試験制度の確立
- ② 「入学試験問題作成基本方針」に基づく良質かつ的確な入学試験問題の作成
- ③ 時代に即応した入学試験問題作成の研究及び展開

### 3 次世代を担う教職員の育成を企図した人材育成・活用とSD活動の充実

- ① “教職協働”の体制が活きる組織的かつ計画的な人材育成並びに活用策の展開
  - (1) 教員
 

“教職協働”による様々な教職員等と連携協力関係の下, “生徒ファースト”を第一とした教育活動を遂行することのできる人材の育成を企図したキャリア形成の構築
  - (2) 職員
 

高等学校・中学校における事務室業務の在り方を常に見直し緻密な業務分析の下, 幅広い視野と新たな視点を有し教育面に係る見識を深め“教職協働”の体制により豊かな学校運営を遂行することのできる人材の育成を企図したキャリア形成の構築
- ② 魅力ある学校づくりを目指した“教職協働”体制の下で推進するSD活動
- ③ 教育の質を保証する体制の確立と更なる充実を目的としたSDの推進

#### 4 次世代に向けた魅力溢れる安全・安心なキャンパス整備

創設100周年記念事業の一環として、さくらホール建替事業及び100-50記念館建替事業を中心とする次世代に向けた「新キャンパス構想」として、次の点を含め検討する。

- ① 中学校・高等学校の共存や教員室の在り方、一定規模の生徒等を収容することのできるアリーナの設置等「新キャンパス構想」の実現に向けた基本的な考え方の設定
- ② 生徒が主体的かつ協働的に学ぶことのできる空間の整備
  - (1) 図書館機能とラーニングコモنزの機能を有する「メディアセンター」(仮称)の設置に向けた検討
  - (2) ネイティブ講師と常に接することのでき自由に英語と接することのできる空間としての「イングリッシュ・ラウンジ」の持続的な発展に向けた検討
  - (3) 医歯薬獣医系大学・学部等への進学者増加を図るための理系人材育成を企図する「サイエンス・ラボ」(仮称)の設置に向けた検討
  - (4) 生徒の生涯にわたる体力づくりに寄与することのできる「ウェルネスセンター」(仮称)の設置に向けた検討
- ③ 生徒が安全・安心な学校生活を送るための取組み
  - (1) グラウンド及び周回コースの整備
  - (2) 防犯カメラ取換工事の実施
  - (3) 各校舎照明に係るLED化の推進
- ④ 校舎に係る各種メンテナンスの計画的な実施等施設の保全管理の実施

#### 5 盤石な財政基盤の持続的な確立

- ① 魅力ある学校づくりに寄与する寄付金制度の構築に向けた検討
- ② 関連業者や地域社会との連携・協働体制の構築による新たな財政基盤の確立に向けた検討

以 上